



●第5回jaih-s共同企画フォーラム開催のお知らせ

日本国際保健医療学会学生部会(jaih-s)との共催企画を開催いたします。
国際保健医療分野での活躍を目指す皆様のご参加をお待ちしております。

遠い国なら他人事?? ～予防接種から見る、理想の国際支援!～

- ◆日時 **2015年10月3日(土)** 11:30～18:20(懇親会19:00～21:00)
- ◆会場 **大阪産業創造館 6F 会議室**
地図(<http://shisetsu.sansokan.jp/access.html>)
- ◆講師 **蜂矢 正彦** 先生 (国立国際医療研究センター国際医療協力局人材開発部・疾病対策グループ)
浦部 大策 先生 (聖マリア病院 国際協力部)
久木田 純 先生 (関西学院大学SGU招聘客員教授、国連フォーラム共同代表)
- ◆参加人数 **100名** (高校生、専門学生、大学生、大学院生、社会人を含むすべての方)
- ◆参加費 **500円**(懇親会参加される方は別途3000円を予定)
- ◆申込み方法 <http://jaihs-osaka.wix.com/who-jaihs>もしくはjaih-sHP
(<http://jaih-s.org/>) のフォームにご記入の上お申込みください。

※お問い合わせは、knowledge@jaih-s.netまで件名に【(公社)日本WHO協会×jaih-s企画】と明記の上ご連絡ください。

ワクチンで予防可能な疾患のために命を落とす子どもたちは、全世界で年間210万人。また、その中でもアフリカや東南アジアなどの医療における途上国では、年間120万人の子どもたちが亡くなっている。日本の年間出生数がおおよそ100万人であることを考えると210万人、120万人という数がいかに多いものか容易に想像できるのではないだろうか。

日本では当たり前に行えることのできる「予防接種」。しかしまだ、世界には予防接種を受ける機会の与えられない子ども達が多くいるのが現状だ。この現実に、国際支援に携わる人々はどうのように立ち向かっているのか。そしてこれからの国際支援はどのようにあるべきなのか。

今年で5回目を迎える本共催企画では、「予防接種」の観点から「国際支援の現状とこれから」について講師の先生よりご講演いただく。

蜂谷正彦先生には、JICA事業やフィールド研究で得られた知見を元に、アカデミックな視点から「医療支援・予防接種の格差と要因」をお話しいただく。浦部先生には、中国、ラオス、ウズベキスタン、マラウィなどにおける末端の予防接種の現場を渡り歩いてこられたご経験を下し、いかにして現地の人々と調和し、いかにして地域の末端に至るまで予防接種を普及させるのか、ミクロな視点からお話しいただく。久木田純先生には、30年にわたるUNICEFでのご勤務から、国や地域の持つ特性に細かく対応した政策にするためにはどうすべきか、マクロな視点から「政策に携わる立場からの国際支援」についてお話しいただく。その後、参加者を交えアフガニスタンを題材としたワークショップ、本テーマやキャリアについて参加者と先生方が直接対話できる場としてワールドカフェを行い、最後に、ワークショップやワールドカフェのフィードバックや、事前アンケートを踏まえたトピック、ならびに今後の世界の保健医療と国際支援の変容と展望、理想の国際支援について、講師の先生方によるパネルディスカッションを行う。

国際支援の現状とこれからをよりリアルに知り、これからの未来を考える。全世界はどのように協力して、どのように子どもたちの笑顔を守っていくのか。世界に医療格差の無くなる日が来るように。

文責:日本国際保健医療学会学生部会(jaih-s)10 期後半運営委員 倉田理華

共催:日本国際保健医療学会学生部会jaih-s (公社)日本WHO協会 <助成>(一社)大阪薬業クラブ